

研究・調査報告書

| | |
|---|---------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 159 | 独立行政法人酒類総合研究所 |
| 題名 (原題/訳) | |
| <p>Effect of moderate alcoholic beverage consumption on insulin sensitivity in insulin-resistant, nondiabetic individuals.</p> <p>インシュリン抵抗性の非糖尿病患者における中程度のアルコール飲料摂取のインシュリン感受性への影響</p> | |
| 執筆者 | |
| Kim SH, Abbasi F, Lamendola C, Reaven GM. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Metabolism. 2009 Mar;58(3):387-92. | |
| キーワード | |
| インシュリン抵抗性、アルコール飲料、インシュリン感受性 | |
| 要 旨 | |
| <p>中程度のアルコール飲料摂取と血漿のインシュリン濃度の減少との相関が言われているが、インシュリン感受性へのアルコールの影響についてはほとんど研究例なく、特にインシュリン抵抗性の非糖尿病患者では研究例がない。インシュリン感受性の促進は中程度のアルコール摂取が心疾患や糖尿病リスクを減少させることに寄与しているように考えられる。本研究では、20名の非糖尿病患者でインシュリン抵抗性の者について、中程度のアルコール摂取がインシュリン感受性を改善するかどうかについて調べた。ウオッカ(9名)か赤ワイン(11名)を8週間に渡ってアルコール換算で30gずつ摂取してもらい、その前後でSSPG (steady-state plasma glucose)、グルコース、インシュリン、リポタンパク質濃度を調べた。インシュリン抵抗性を示すSSPGが全体的に約8%減少し、高密度リポタンパク質コレステロール濃度が平均で0.09 mmol/L増加した。女性よりも男性でこの傾向は強く見られた。また、ウオッカを摂取した者と赤ワインを摂取した者で傾向は同じであった。これ以外の空腹時血糖値、インシュリン、中性脂肪には変化は見られなかった。以上から、8週間の中程度のアルコール摂取がインシュリン抵抗性の非糖尿病患者において、インシュリン感受性を改善する効果があることが示唆された。</p> | |